

「田辺市の環境」刊行にあたって

我々が住んでいるこの田辺市は世界遺産「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される古い歴史や文化、天神崎をはじめとする豊かな自然環境に恵まれ、私たちはこれらを大切に、自然環境からの恩恵を受けて暮らしています。もちろん私たちだけではなく地球の全ての生物は様々な影響を相互に受けながらこの恩恵の中で生きています。

近年、私たちが便利で快適な生活を求め続けた結果、資源やエネルギーの大量消費が続き、自然環境の破壊による生物多様性の損失や地球温暖化の進行など、日頃からの生活環境に係る問題から地球規模に至る問題まで、様々な問題が提起されています。

特に2015年（平成27年）は、地球規模の環境の危機を反映し、持続可能な開発目標（SDGs）を掲げる「持続可能な開発のための2030アジェンダ」や「パリ協定」の採択など、世界を巻き込む国際的合意が立て続けになされ、世界が脱炭素社会に向けて大きく舵を切っていく中、我が国でもより一層の対策が求められています。

さらに2019年（令和元年）6月に大阪で開かれたG20サミット（第14回20か国地域首脳会議）において、近年問題視されている海洋プラスチック問題が主要テーマの一つとして話し合われ、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」として、プラスチックの重要性を認識しつつも、管理を誤ったプラスチックごみの流出を減らすなど、包括的なアプローチによって、新たな海洋プラスチック汚染を2050年までにゼロにする事が世界の共通目標として共有されました。

こうした環境問題は決して私たちと無関係ということではなく、魅力ある自然豊かな田辺市を後世に継承していくためには、市民一人ひとりが環境問題全体について考え、住民と行政が協働して取組を進めることが必要不可欠であります。

本市では2017年（平成29年）7月に新たな10年間のまちづくりの指針となる「第2次田辺市総合計画」を策定し、まちづくりの理念に掲げる「一人ひとりが大切にされ、幸せを実感できるまちづくり」に基づき、まちの将来像「人と地域が輝き、未来へつながるまち田辺」の実現に向けたまちづくりの基本方向である「人」「活力」「安全」「希望」「安心」「快適」の6つの政策のうち、環境政策の方針を「安心」「快適」として定め、生活排水処理による水質浄化や温室効果ガス排出抑制に関する取組、環境保全活動や美化活動、ごみ減量とリサイクルによる循環型社会づくりに係る取組等の諸施策を展開しており、今後におきましても、市民の皆様とともに、「人と地域が輝き、未来へつながるまち田辺」の実現に向け、取り組んでまいります。

本冊子は、平成28年度から30年度における本市の環境の現状等について取りまとめたものであり、皆様にご報告申し上げますとともに、これにより、本市の環境問題について、一層のご理解を深めていただくことで皆様の環境保全に対する理解と行動の一助となれば幸いに存じます。

令和2年3月

田辺市長 真砂 充敏

